

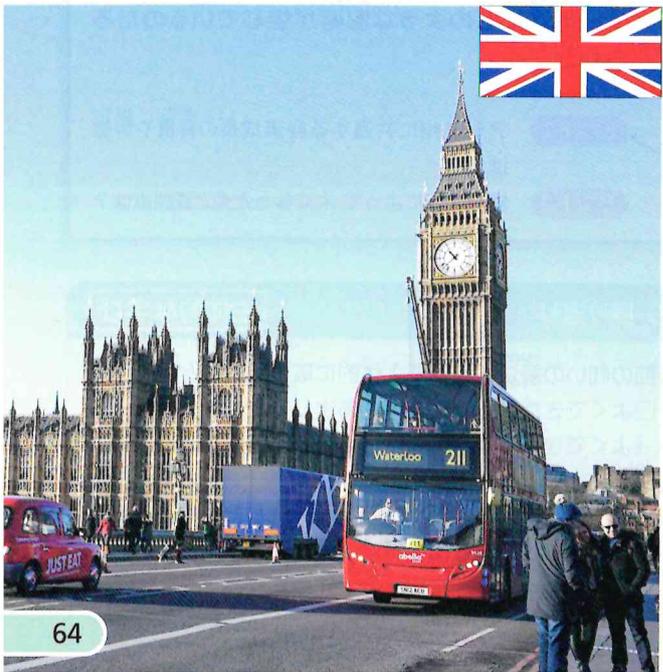


写真で眺める  
ヨーロッパ



↑1 <sup>さんみやく</sup>アルプス山脈を走る登山列車(スイス、インターラーケン近郊、2020年6月) 列車で移動しながらアルプス山脈の雄大な景色を楽しむことができます。 ➡ p.66

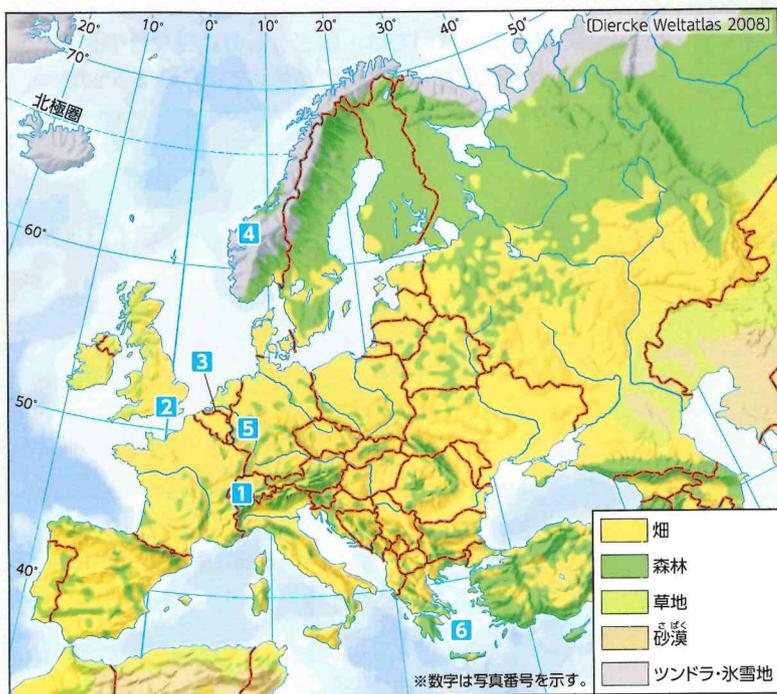
↓2 <sup>れきし</sup>歴史的な建造物がみられる町並み(イギリス、ロンドン、2015年) ➡ p.68、76



↑3 <sup>こっさゆう</sup>国境を挟んでくつろぐ旅行者(ベルギー・オランダ、2015年) ➡ p.70

2人の間にある  
地面の印は  
何か？





**地図帳活用**

ヨーロッパ州の鳥瞰図を眺めよう。



ヨーロッパ州には、歴史のある建物がたくさんあって、観光名所になっている所が多いんだね。

→ **5** モーゼル川のそばに立つ古城(ドイツ、コブレンツ近郊、2018年)  
 モーゼル川は、フランスやルクセンブルク、ドイツを流れる国際河川で、川沿いには古城や古くから栄えた町が点在しています。 p.66



↑ **4** 氷河に削られた深い谷に海水が入り込んだフィヨルド (ノルウェー、オーレンス近郊、2018年7月) p.66



2章 世界の諸地域 ヨーロッパ州



↑ **6** 地中海のティエラ(サントリーニ)島を訪れる観光客(ギリシャ、2017年7月) p.67

**ヨーロッパ州の学習を見通そう**

→ p.79の振り返りでは、あなたの考える「写真で眺めるヨーロッパ州」をつくろう

この節では、特に写真**3**にみられるような「国どうしの結びつきの強まり」を主題に、ヨーロッパ州がどのような特色をもつ地域なのか、学習していこう。

見直しスライド





2節の問い ヨーロッパ州では、国どうしの結びつきの強まりによって、地域にどのような影響が生じているのだろうか。



↑2 広大な平原を走る高速列車(フランス)

←1 ヨーロッパ州の自然資料活用 北緯40度の緯線を通る場所に注目しよう。

1 ヨーロッパ州の自然環境



学習課題

ヨーロッパ州は、地形や気候にどのような特徴がみられる地域なのだろうか。

面積	オセアニア 6.5				
1億3009万km <sup>2</sup>	アジア 23.9%	ヨーロッパ 17.0%	アフリカ 22.8%	北アメリカ 16.4%	南アメリカ 13.4%
人口	オセアニア 0.6				
79億7510万人	アジア 59.2%	ヨーロッパ 9.3%	アフリカ 17.9%	北アメリカ 7.5%	南アメリカ 5.5%

※ロシアはヨーロッパ州に含む。(2022年) [Demographic Yearbook 2022]

↑3 世界に占めるヨーロッパ州の割合

解説① 国際河川

複数の国の領域や国境を流れ、すべての船が自由に航行できるように沿岸国間で条約が結ばれた河川のことです。



↑4 エルベ川をまたぐ運河(ドイツ、マクデブルク近郊、2021年)

アルプス山脈の南北で異なる地形

ヨーロッパは、ユーラシア大陸の西部に位置し、西は大西洋、南は地中海など、さまざまな海に面しています。ヨーロッパの中央部にはアルプス山脈が東西に連なり、高い山々がそびえています。ヨーロッパの地形は、このアルプス山脈を境として、南北で異なります。

アルプス山脈の北側には、フランス平原や東ヨーロッパ平原などの広大でなだらかな土地が広がり、ライン川やドナウ川などの国際河川が流れています。これらの河川は、流れが緩やかで水運に適しており、その多くが運河で結ばれています。そのため、流域の都市を結ぶ交通路として重要な役割を果たしてきました。さらに、ヨーロッパの北部に位置するスカンディナ비아半島には、氷河によって削られた谷に海水が深く入り込んだフィヨルドとよばれる地形もみられます。一方、アルプス山脈の南側は、北側よりも山がちで平野が少なく、流れの急な河川もみられます。また、火山も多く、イタリアやギリシャなどでは地震がしばしば発生します。



## 「水の都」ベネツィアが水没する？

防災

イタリアの北部にあるベネツィアは、アドリア海の干潟につくられた都市です。歴史的な建物や運河のある町並みは「水の都」として有名で、世界中から多くの観光客が訪れています。

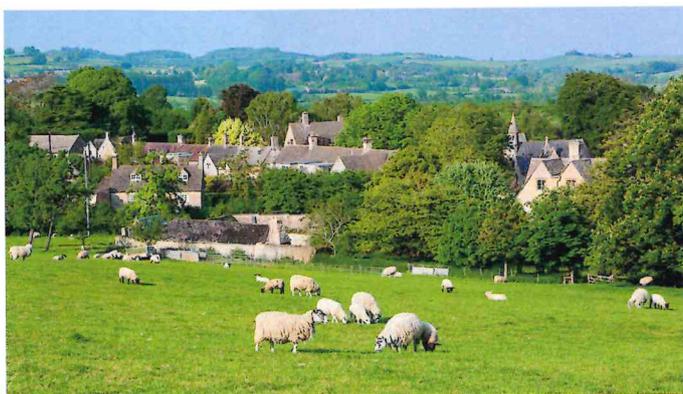
町の陸地の大半が海拔 1m 以下と低地であることから、昔から高潮(→ p.147)のたびに、町全体が浸水してきました。近年は、過度な地下水のくみ上げによる地盤沈下、気候変動による大雨、海面上昇などにより、浸水が多発しています。そのため、町の沖合いには海水の浸入を防ぐための防潮堤がつけられました。一方、水害と共生する意識が高まり、浸水しても通常と変わらない生活を送る人も増えています。



↑5 高潮の影響で町全体が浸水した際のベネツィア (イタリア、2019年)

2章

世界の諸地域 ヨーロッパ州



↑6 羊の放牧(イギリス、グロスター近郊、2016年6月)



↑7 人々にぎわう地中海の海岸(スペイン、マラガ近郊、2017年8月)

### 緯度が高いわりに 温暖な気候

ヨーロッパの大部分は、日本に比べて高緯度に位置していますが、大西洋を北上する暖

流の北大西洋海流と、その上空を吹く偏西風の影響を受けて、比較

的温暖です。なかでも、大西洋や北海に面した地域は西岸海洋性気

候となっており、冬でも寒さはそれほど厳しくありません。この地

域では、1年を通して降水量が安定しているのので、小麦をはじめ、さまざまな作物の栽培、牧畜、酪農が盛んです。

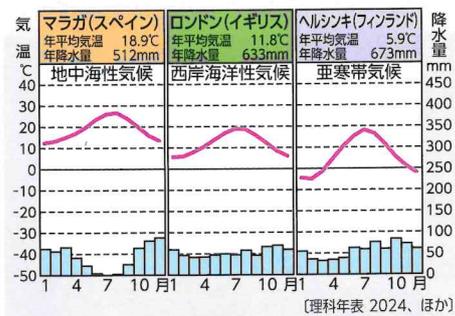
一方、ギリシャやイタリア、スペインなどの地中海沿岸は、夏は晴天が続いて乾燥する地中海性気候であり、曇り空が多いイギリス

やドイツなどの人々にとっての夏のリゾートになっています。

北極圏にかかるスカンディナヴィア半島の大部分やヨーロッパの東部、標高が高いアルプス山脈の周辺といった地域は、冬の寒さが厳しい亜寒帯(冷帯)です。北極圏の地域では、夏になると太陽が沈んでも暗くならない白夜とよばれる現象がみられ、短い夏の期間を森のなかの別荘などで過ごす人が多くいます。

### 解説② 偏西風

北半球・南半球ともに緯度 30 度から 60 度付近にかけての地域で、西から東に向かって一年中吹く風のことで



↑8 ヨーロッパ州の主な都市の雨温図

ヨーロッパ州の主な山脈や平原、河川的位置を、図1で確認しよう。

ヨーロッパ州の地形や気候の特徴を、アルプス山脈の南北に分けて説明しよう。



ドイツの人々にとって、クリスマスはどんな行事なのかな？



↑1 教会前の広場で開かれるクリスマスマーケット(ドイツ、ニュルンベルク、2017年12月) ヨーロッパでは、クリスマスが近づくと、教会前の広場などでクリスマスの飾りや菓子などを売る市場が開かれ、人々にぎわいます。

## 2 ヨーロッパ文化の共通性と多様性

2節の問い ヨーロッパ州では、国どうしの結びつきの強まりによって、地域にどのような影響が生じているのだろうか。

**学習課題** ヨーロッパ州の国々には、文化にどのような共通性や多様性がみられるのだろうか。



↑2 正教会で祈る人々(ブルガリア、2019年) 正教会では立体的な像をつくるのが禁じられており、「イコン」とよばれる聖人が描かれた絵が信仰の対象となっています。

**生活に根づくキリスト教の文化** ヨーロッパでは、多くの地域でキリスト教が信仰されています。クリスマスやイースター(復活祭)など、キリスト教の重要な行事の期間は、家族や友人と集まって祝います。ヨーロッパの町や村の中心には、キリスト教の教会があり、日曜日には多くの人々が礼拝に訪れます。結婚式や葬儀など、人生の節目となる儀式の多くが教会で行われ、キリスト教はヨーロッパの人々の生活に深く根づいています。

**三つに分けられるキリスト教と言語** ヨーロッパで信仰されるキリスト教には、プロテスタント、カトリック、正教会という宗派の違いがあります。イギリスやドイツ北部、スウェーデンなどではプロテスタントを信仰する人が多いのに対して、イタリアやスペイン、フランスなどではカトリックが一般的です。また、ロシアやギリシャなどに住む人の多くは、正教会を信仰しています。

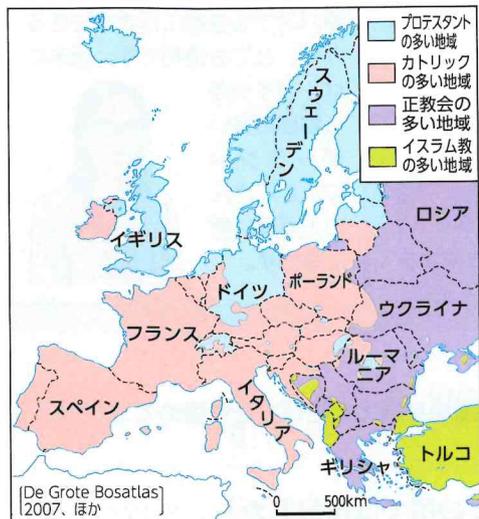
ヨーロッパのさまざまな言語も、およそ三つの系統に分けることができます。北西部では、英語やドイツ語などのゲルマン系言語

## カトリックの祭り、謝肉祭(カーニバル)

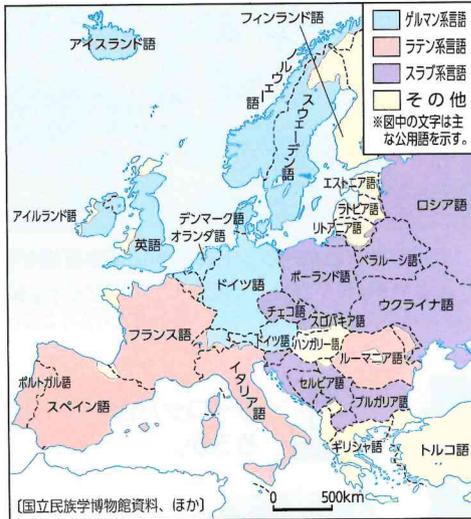
キリスト教には、毎年3月もしくは4月にキリストの復活を祝うイースターという祭りがあり、カトリックでは、その46日前から肉食を禁じる伝統があります。この肉食禁止の時期に入る前に、家族や友人と肉を食べて楽しむ風習が生まれ、これが謝肉祭の起源になったといわれています。現在では、仮装をしたり、山車をつくってパレードを行ったりする謝肉祭が、カトリック文化圏で広くみられる季節行事になっており、植民地時代にカトリックが広まった南アメリカの国々でもみられます(→ p.110)。



↑3 謝肉祭のパレード(イタリア、2022年2月)



↑4 ユーロッパの宗教の分布



↑5 ユーロッパの言語の分布

ゲルマン系言語	スラブ系言語
<b>英語</b> Good morning グッド モーニング  <b>ドイツ語</b> Guten Morgen グーテン モルゲン	<b>ロシア語</b> Доброе утро ドーブラエ ウートラ  <b>ポーランド語</b> Dzién dobry ジェン ドブリ
ラテン系言語	その他の言語
<b>フランス語</b> Bonjour ボンジュール  <b>イタリア語</b> Buon giorno ブオン ジョルノ	<b>ギリシャ語</b> Καλη μέρα カリ メラ  <b>フィンランド語</b> Hyvää huomenta フバー フオメンタ

↑6 各言語の「おはよう」を表す言葉

が、南部ではイタリア語やスペイン語などのラテン系言語が多くの人に話されています。また、東部では、ロシア語やポーランド語などのスラブ系言語が一般的です。同じ系統の言語は、同系統の民族の言葉が長い時間をかけて変化してきたものなので、文法や発音が似ているといった共通の特徴がみられます。

### 多様な文化が共存する社会

ヨーロッパでは、固有の言語やキリスト教を中心とした文化が育まれてきました。その一方、かつてヨーロッパ諸国の植民地だったアジアやアフリカの国々からの移民や難民、トルコなどの周辺諸国からの労働者など、多様な異なる文化をもつ人々がヨーロッパに移り住み、イスラム教を信仰する人も増えてきました。そのため、現在のヨーロッパでは、多様な文化をもつ人々が互いに支え合いながら暮らす共生社会が目指されています。そこでヨーロッパ諸国は、移民や難民を受け入れるための制度を整え、学校教育では異文化について学んだり、移民や難民に対して現地語の習得を支援したりする取り組みを行っています。

① ユーロッパの民族は、言語と同様に主にゲルマン系・ラテン系・スラブ系に分けられます。



↑7 さまざまな民族が行き交うロンドンの街角(イギリス、2017年) 資料活用 人々の服装に注目しよう。



確認しよう

ヨーロッパ州の宗教や言語の分布を、図4・5や本文で確認しよう。



説明しよう

ヨーロッパ州にはどのような共通性や多様性がみられるのか、宗教に着目して説明しよう。



国境を自由に  
行き来できる  
んだね!

↑1ドイツとポーランドの国境に架かる橋を行き来する  
人々や車(ドイツ、アイゼンヒュッテンシュタット近郊)

**声** 国境の近くに住む  
ポーランド人の話

私は、ポーランドとドイツの国境になっている、オーデル川の近くに住んでいます。自宅はポーランドにありますが、平日はオーデル川に架かる橋を渡って、ドイツ国内にある会社に行っています。ドイツとの国境は、歩くのはもちろん、車やバスでも自由に行き来できるから、とても便利です。週末には、ドイツから物価の安いポーランドに、たくさんの方が買い物に来ます。

### 3 EUの成り立ちと人々の生活の変化

2節の問い ヨーロッパ州では、国どうしの結びつきの強まりによって、地域にどのような影響が生じているのだろうか。

**学習課題** ヨーロッパ州では、なぜ国境を越えた結びつきを強めてきたのだろうか。



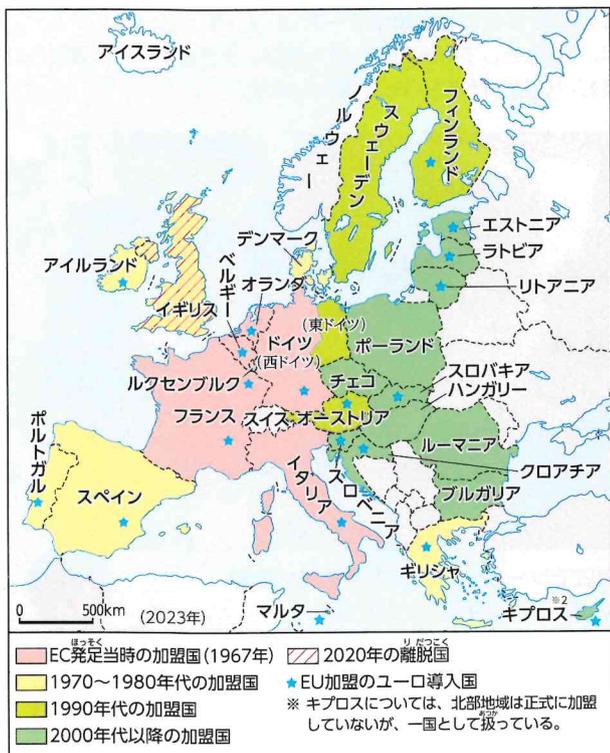
↑2かつてのドイツとポーランドの国境(ドイツ、アイゼンヒュッテンシュタット近郊、1996年) 写真1と同じ町の国境の様子です。この写真が撮影された当時、国境を越えるためには、検問所を通過する必要がありました。

対話 国境での検問がなくなったことで、人々の生活はどのように変わったのか、話し合おう。

**国境を越えてつなげる人々や社会** 多くの国では出国したり、外国へ入国したりするときには、パスポート(旅券)の審査が必要です。ところが、ヨーロッパの多くの国では、パスポートの審査なしで自由に国境を越えて行き来できます。そのため、同じヨーロッパでも文化が異なる人どうしが一緒に仕事をしたり、大学で授業を受けたりする光景が見られます。これには、特に第二次世界大戦後のヨーロッパの歴史が深く関係しています。

**ヨーロッパ連合(EU)の誕生** ヨーロッパでは、昔から領土や資源をめぐる国どうしの争いがたびたびありました。特に、二度にわたる世界大戦により、ヨーロッパのほぼ全域で大きな被害が発生したことから、大戦後は同じヨーロッパの国どうしで争うのをやめ、互いに協力して発展していこうとする動きが高まりました。また、面積や人口規模の小さい国が多いヨーロッパは、大戦後に経済の力を増したアメリカ合衆国、日本などに経済力で対抗するために、国の枠組みを超えて団結する必要が生じました。

1967年には、フランス、イタリアなどの6か国がヨーロッパ共同体(EC)という組織をつくり、1993年にはヨーロッパ連合(EU)が



他国の大学での学習成果を自国での卒業資格などに活用できる

国境の通過が自由で関税もない

製品の規格が同じなので、他国でもそのまま使える

ユーロ導入国どうしては、両替せずに買い物ができる

仕事の資格が共通で、他国でも働くことができる

↑4 EU加盟国間のできることの例

こころか硬貨 裏側には各国独自のデザインとなっていますが、共通して使えます。

しへい紙幣

裏側のデザイン

ドイツ 国章である 鷲のマーク	フランス フランス革命の標語 「自由・平等・博愛」 の文字	イタリア 16世紀の芸術家 レオナルド・ダ・ヴィンチ の作品	オーストリア 18世紀の音楽家 モーツァルトの顔	スペイン 元スペイン 国王の顔
-----------------------	--	---	--------------------------------	-----------------------

↑3 EU加盟国の拡大 **小歴公** **資料活用** EU発足後に加盟した国に注目しよう。

↑5 ユーロの紙幣と硬貨 EU加盟国のなかには、スウェーデンやデンマークなど、ユーロを導入せず、独自の通貨を使っている国もあります。

誕生しました。1990年代から2000年代にかけては、北ヨーロッパや東ヨーロッパの国々が相次いで加わり、2023年現在で27か国が加盟しています。こうして現在のEUは、人口規模や国内総生産(GDP)の合計でもアメリカ合衆国と肩を並べる、世界の経済や政治に大きな影響を与える存在となっています。

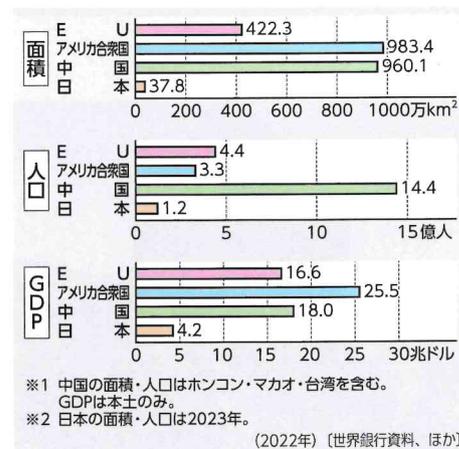
① 1年間に国内で生み出された、国内の人々の収入の合計金額のことで、国の経済力を計る重要な指標の一つです。

**統合による経済や人々の生活の変化**

EUとしての統合は、世界のなかでのヨーロッパの影響力を強めるだけでなく、EU域内に暮らす人々の生活にも大きな変化をもたらしました。

行き来が自由になったことで、人々は国境を越えて自由に好きな所に住んで、働けるようになりました。また、EU域内の多くの国が共通の通貨ユーロを導入しました。これによって両替をする必要がなくなり、国境を越えた買い物や旅行、留学などが活発になりました。さらに、加盟国からの輸入品にかかる税金(関税)をなくしたことで、EU域内の農産物や工業製品の貿易が盛んになりました。

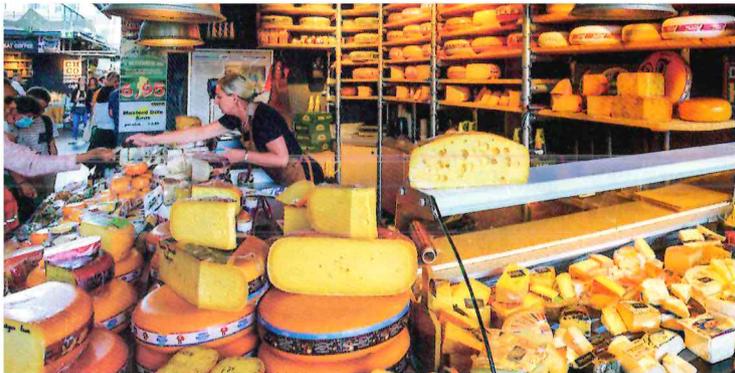
行き来を自由にしたり、共通の通貨を導入したりすることで、EUは、域内の産業を発展させ、人々の生活をより豊かにしようと努めています。



↑6 EUとアメリカ合衆国・中国・日本の比較

**確認しよう** EU統合が人々の生活にもたらした影響を、図4や本文から書き出そう。

**説明しよう** EUが誕生した背景と、統合の経緯を説明しよう。



←1 店に並ぶさまざまな種類のチーズ(オランダ、ロッテルダム、2020年) 味見をして好みのチーズを選び、大きなチーズの塊から欲しい量だけ切り分けてもらって購入します。



↑2 精肉店でソーセージを購入する買い物客(ドイツ、ハンブルク近郊、2019年)

←3 ワインの試飲をする人々(イタリア、シチリア島)

ヨーロッパの食文化には、地域によってどのような違いがあるのかな？



## 4 ヨーロッパ州の農業とEUの影響

2節の問い ヨーロッパ州では、国どうしの結びつきの強まりによって、地域にどのような影響が生じているのだろうか。

学習課題 ヨーロッパ州の農業には、地域によってどのような特色があり、EU統合によって、どのような変化が生じたのだろうか。

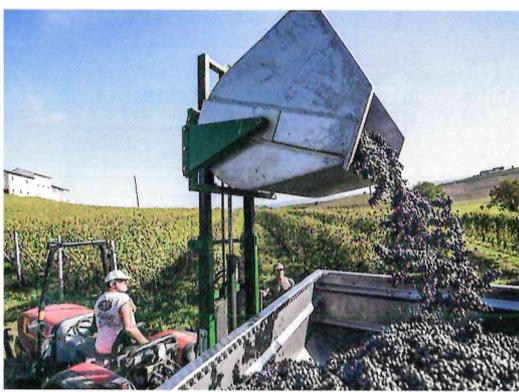
### 多様な食文化を育んできた農業

ヨーロッパでは、地形や気候など、自然環境に合わせた農業が古くから行われてきたので、

各地域でさまざまな食文化をみることができます。

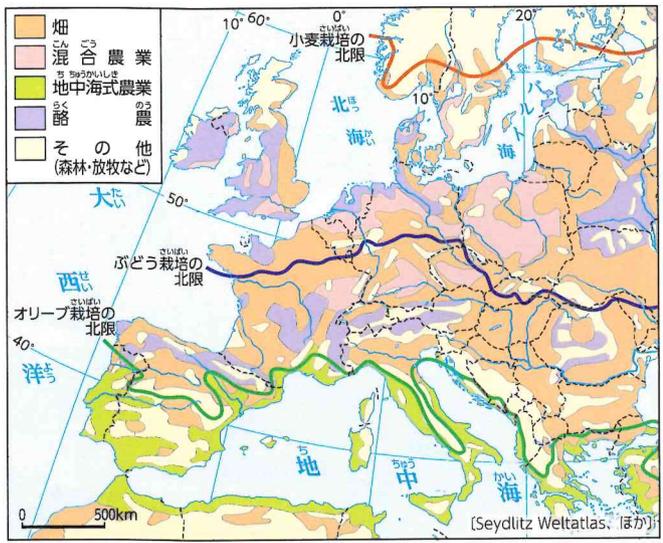
アルプス山脈より北側の地域では、1年を通して降水量が安定しており、小麦やじゃがいも、ライ麦などの食料のほかに、家畜の餌にする作物の栽培と、豚や牛などの家畜の飼育を組み合わせた混合農業が行われています。ドイツでは、ライ麦パンやじゃがいも、種類が豊富なソーセージ、ビールなどが食卓に並びます。ドイツより北側のデンマークやオランダなど北海沿岸の地域は、気候が冷涼で、土の栄養分が少ない土地が多いことから、牧草を栽培して乳牛を飼い、牛乳やバター、チーズを生産する酪農が盛んです。

アルプス山脈より南側の地域では、降水量の多い冬に栽培する小麦とともに、オレンジやオリーブ、ぶどうなど、夏の高温と乾燥に強い果樹を栽培する地中海式農業が行われています。イタリアでは、オリーブオイルをたっぷり使って、小麦からつくるパスタやピザ、肉や魚料理が食べられており、ワインもよく飲まれています。



↑4 ぶどうの収穫(イタリア、トリノ近郊、2019年10月) ぶどうの果汁を発酵させるとワインになります。

地図帳活用 ヨーロッパで栽培が盛んな作物と気温・降水量との関係を確認しよう。



↑5 ヨーロッパの農業地域



**環境・エネルギー**  
**環境に配慮したヨーロッパの食品**

ヨーロッパのスーパーマーケットに行くと、Bio というマークがついた野菜、卵、牛乳などの農産物、紅茶やチーズといった加工食品が商品棚に並んでいます。Bio は、EU による認証制度の一つです。例えば、農薬や化学肥料を使わない農地で栽培されるなど、一定の条件を満たした農産物や、その農産物の多くを使用した加工食品が、Bio の商品として認められ、販売されています。これらの商品は、一般的な農産物や加工食品と比べて価格は高いですが、健康や環境への配慮という面から購入する人が多くいます。また、消費者は商品の購入を通じて、生産地域の振興に貢献することができます。

→7 容器に Bio と書かれた牛乳(ドイツ、2016年)

←6 混合農業が行われている地域の畑 (ドイツ、ミュンスター近郊、2018年)

**EU が目指す農業** 各地で特色ある農業が営まれるなか、EU は域内全体としての**食料自給率**を上げ、EU 域外からの輸入農産物にも対抗できるように、個々の農家や地域に補助金を出して保護する**共通農業政策**をとってきました。しかし、これは農産物の過剰な生産を招き、多額の補助金の負担が問題となりました。その後、小規模な農家が多く、経済的に不安定な東ヨーロッパの国々が EU に加わったことで、補助金の増加が EU の財政をさらに圧迫するようになりました。このため、質の高い農産物を積極的に生産する農家や地域を支援し、農薬や化学肥料の使用を抑えた環境重視の農業に対して補助金を増やすといった取り組みを進めています。

EU は、一定の基準を満たした製品を認証する制度を設け、域内で生産される農産物・食品のブランド化も進めています。フランスのシャンパン、オランダのゴーダチーズ、スペインのイベリコ豚はその例であり、国内外で高値で売り買いされます。これには、伝統的な製法を守りながら、品質の向上や産地の経済発展に貢献できるという、生産者側の利点があります。

**解説 食料自給率**  
 国内で消費される食料のなかで、国内で生産される食料が占める割合のことです。

国名	小 麦	いも類	野菜類	果実類	肉 類	牛乳製品
イギリス	63	87	41	14	77	89
オランダ	20	172	303	35	295	187
ドイツ	134	129	40	31	117	105
フランス	166	139	71	67	104	104
イタリア	63	57	182	102	82	89
スペイン	74	60	227	130	157	90
アメリカ合衆国	154	101	83	66	114	102
日本	15	73	80	38	53	61

自給率(2020年)  
 ■ 120%以上 ■ 50~100  
 ■ 100~120 ■ 50%未満  
 ※重量に基づく。(令和4年度 食料需給表)

↑8 主な国の品目別自給率

**確認しよう** 混合農業・酪農・地中海式農業が行われている地域と主な農産物を、図5や本文で確認しよう。

**説明しよう** EU は域内の農業を支援するために、どのような取り組みを行っているのか、説明しよう。



↑1 航空機の部品を専用貨物機に積み込む様子(ドイツ、ブレーメン) ブレーメンの部品工場で製造された航空機の胴体部品が、最終組み立て工場へと輸送されていきます。

航空機の部品の生産と組み立ては、別の国で行われているんだね。



## 5 ヨーロッパ州の工業とEUの影響

2節の問い ヨーロッパ州では、国どうしの結びつきの強まりによって、地域にどのような影響が生じているのだろうか。

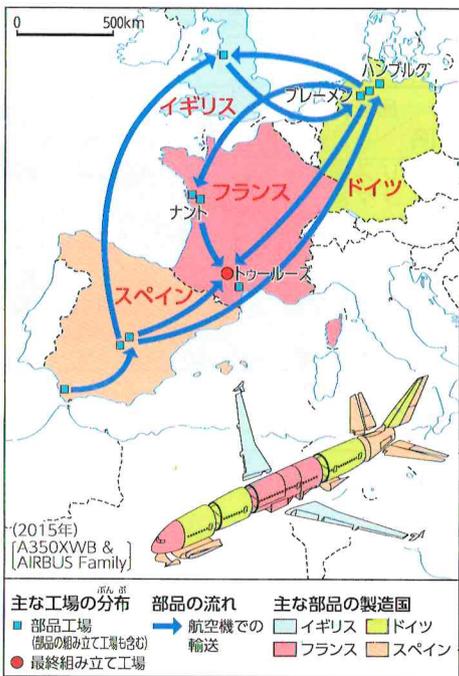
**学習課題** ヨーロッパ州の工業はどのように変化し、EU 統合によってどのような影響が生じているのだろうか。

**国を超えて発達した航空機産業** ヨーロッパでは、医薬品、精密機械などを生産する先端技術産業が発達しています。

先端技術産業の一つである航空機産業では、フランスとドイツの企業が共同で設立したエアバス社が、アメリカ合衆国のボーイング社とともに世界の航空機市場の大半を占めています。現在では、スペインなどのEU 諸国の企業やイギリスの企業も参加し、新しい航空機の開発に向けて国を超えた協力体制がとられています。エアバス社のエンジンはイギリス、胴体はフランスで製造されるなど、各国の企業の専門的な技術を生かした国際分業が行われています。

**EU 統合で拡大するヨーロッパの工業地域** ヨーロッパでは、18 世紀の半ば以降、イギリスやベルギー、フランスを中心に、

世界で最初に工業が発達しました。その後、ドイツのルール工業地域に代表されるように、鉄鉱石や石炭といった地域の資源を生かした重工業が発達し、第二次世界大戦後の西ヨーロッパの経済成長を支えました。しかし、1960 年代にエネルギーの主役が石炭から石油へと変化すると、工業の中心はしだいに石油化学工業へと移り、ロッテルダムやマルセイユ近郊など、原油の輸入に便利な臨海部に工場が集中するようになりました。



↑2 エアバス社の航空機(エアバスA350XWB)の製造における国際分業 **資料活用** 国を超えて部品が行き来していることに注目しよう。



↑3 ヨーロッパの主な工業地域 (対話) 日本で見かけるヨーロッパの工業製品には、どのようなものがあるか、話し合おう。

未来に向けて だつたんそ 脱炭素社会に向かうヨーロッパ

環境・エネルギー

ヨーロッパでは、脱炭素社会(→ p.157)に向けた取り組みが数多くみられます。再生可能エネルギーの導入をはじめ、環境への負荷が小さい鉄道の利用促進、電気自動車の普及に向けた充電スタンドの設置などがみられます。

2018年ごろからは、ヨーロッパの各地で、多くの人が参加し、政府に対して気候変動への対策を訴えかける運動も活発になっています。脱炭素社会の実現のためには、それを支える技術革新やしくみづくりとともに、個人がもつ意識の変化も重要となってきます。

→4 フランスのパリに向かう国際夜行列車に乗り込む人々(オーストリア、ウィーン、2021年) 航空機や自動車に代わる長距離の移動手段として、夜行列車の利用が見直されています。



2章

世界の諸地域

ヨーロッパ州

現在、工業生産や経済活動が活発な地域は、ロンドンやフランクフルト、ミュンヘンなどの大都市近郊に移動しています。そして、**情報通信技術(ICT)産業**がストックホルムやヘルシンキで発達するなど、工業が盛んな地域はヨーロッパ各地に拡大しています。

- 5 工業地域の拡大には、EU加盟国の拡大とも関係しています。2004年以降にEUに加盟した東ヨーロッパの国々は工業化が遅れていました。しかし、賃金が低く、製品を安く生産できることから、西ヨーロッパの企業が工場を移転する動きが活発になっています。また、域内にたくさんの人が暮らすEUの巨大な市場を求めて、自動車や電気機械などをつくる日系企業も、ポーランドやチェコといった東ヨーロッパの国々に進出しています。東ヨーロッパの国々は、多くの雇用を創出し、高度な工業技術や知識をもたらしてくれる外国企業の進出に大きな期待を寄せています。

環境に配慮した産業発展を目指して

過去には工業が発達する過程で、工場からの廃水・排煙による河川の水質汚濁や大

気汚染、酸性雨を原因とする森林破壊が起きました。こうした経験から、ヨーロッパの国々は、再生可能エネルギーの導入や、環境への負荷が小さい電気自動車などの開発にも取り組んでいます。



↑5 街なかにある電気自動車の充電スタンド(ノルウェー、2015年) ヨーロッパでは電気自動車の普及が進んでいます(→ p.53)。なかでもノルウェーは政府の取り組みによって、新車販売台数の多くを電気自動車が占めています。

地図帳活用

ヨーロッパで工業生産額が高い国を確認しよう。



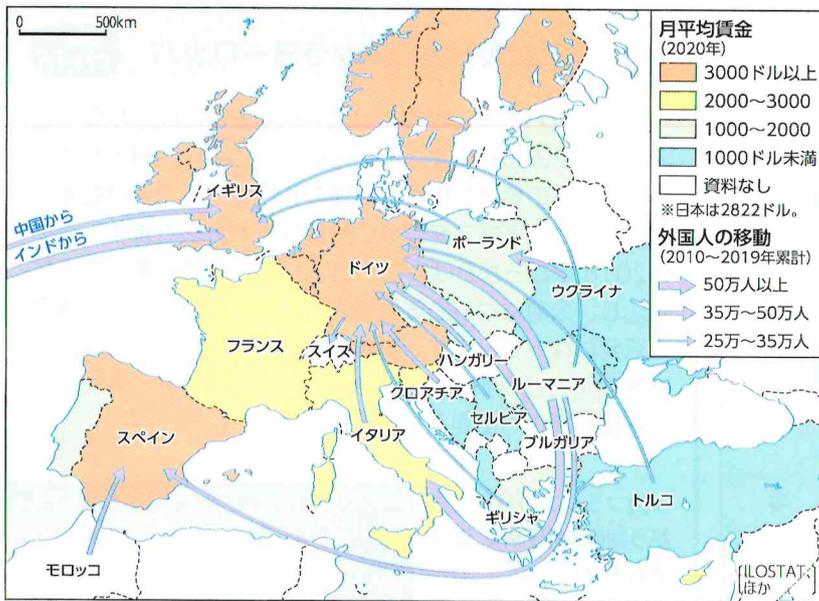
確認しよう

ヨーロッパ州で工業が盛んな地域がどのように変化したのか、図3や本文で確認しよう。



説明しよう

ヨーロッパ州の工業地域の拡大とEU統合との関係について説明しよう。



↑1 ユーロッパ諸国における月平均賃金と外国人の移動

**吉** ルーマニアからドイツに移住した人の話

ルーマニアがEUに加盟して、EU域内なら好きな所で働けるようになったので、家族と一緒にドイツに移住して、電気機械の組み立て工場に働いています。同じような仕事でも、ルーマニアよりドイツのほうが賃金が4倍も高いので、若い人を中心にドイツで働きたいと考えるルーマニア人はたくさんいます。



外国に移動する人々は、どんな理由で移動するのかな？

**6** EU統合による課題への取り組み

**2節の問い** ユーロッパ州では、国どうしの結びつきの強まりによって、地域にどのような影響が生じているのだろうか。

**学習課題** 統合を進めてきたEUはどのような課題を抱えているのだろうか。

**EU域内の経済格差** EU域内での移動が自由になった結果、より多くの収入を求めて、東ヨーロッパの国から西ヨーロッパの国へ出稼ぎに行く労働者が増えています。そのため、東ヨーロッパでは労働力不足が深刻で、特に高い技術や能力をもった人材の流出は、東ヨーロッパの国々の発展を妨げる要因の一つとなっています。このような背景から、EU加盟国間の月平均賃金には最大で5倍近くの差が生じており、**経済格差**の解消が課題となっています。

一方、西ヨーロッパでは、企業が生産拠点を東ヨーロッパに移したことで、国内の雇用が減っています。また、EU域外からの移民や難民への支援の増加も問題となっています。

**経済格差の解消に向けて** EUでは、財政が豊かな国々が中心となって支えられる補助金をもとに、地域振興のための基金の設立といった、経済格差の解消に向けた政策がなされてきました。しかし、補助金の支出や、増加する移民と難民に対する支援の負担の大きさに不満を抱いたイギリスは、2020年にEUから離脱しました。こうしたなか、EUではそれぞれの加盟国が、外国の工場や企業を誘致したり、職業訓練のための教育を強化したりするなど、国の経済の発展に向けた独自の対策も進められています。



↑2 EUからの離脱を喜ぶ人々 (イギリス、ロンドン、2020年1月31日)

**確認しよう** ユーロッパ州では、どのような国からどのような国への移動が多いのか、図1や本文で確認しよう。

**説明しよう** EU統合による課題と、その解消へ向けた取り組みについて説明しよう。



せいしりー だいせいどう  
聖ワシリー大聖堂

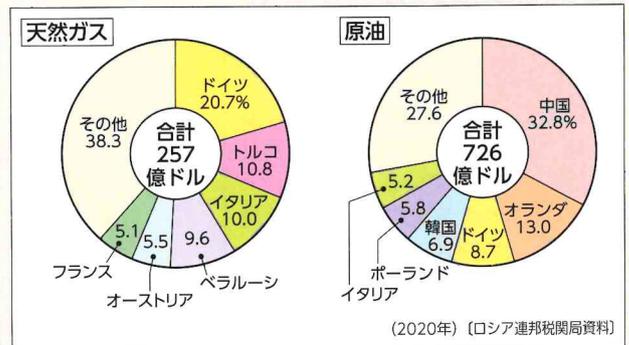
↑3「赤の広場」でスケートを楽しむ人々（ロシア、モスクワ）奥に見えるたまねぎ型のドーム屋根をもつ建物は、ロシア正教会の教会です。



↑4ロシアとその周辺の自然 国土の大部分にタイガとよばれる針葉樹林が広がっており、北極海沿岸にはツンドラのみみられます(→p.29)。南部のステップ(→p.28)では、小麦やライ麦などが栽培されています。



↑5天然ガスの精製工場と液化天然ガスを運ぶ砕氷船(ロシア、ヤマル半島、2021年3月) 天然ガスは冷やして液体にされ、港から北極海を通してヨーロッパや東アジアに向けて輸出されます。



↑6ロシアの天然ガスと原油の輸出先 対話 天然ガスや原油の輸出先はどのような地域に多いのか、話し合おう。

日本の約45倍の面積があり、世界一の広さをもつロシアは、ウラル山脈を境に、東側はアジア州に、西側はヨーロッパ州に属しています。国土の大部分が亜寒帯(冷帯)であり、永久凍土が広がる地域もあります(→p.36)。近年は、地球温暖化による永久凍土の融解が心配されています(→p.156)。

ロシアには100を超える少数民族が暮らしていますが、全体の8割を占めるのはロシア人で、一般的にロシア語が使われています。ロシア人の多くは正教会(→p.68)を信仰し、バレエやオペラなど、ヨーロッパと共通した文化を継承してきました。また、寒い気候を生かしたスポーツが盛んであり、オリンピックをはじめ、さまざまな世界大会が開かれてきました。

広大な国土をもつロシアには、鉱産資源が豊富にあり、

天然ガスや原油が多くとれます。これらは、主にヨーロッパなどの周辺諸国にパイプラインや船を使って輸出されています(写真5、図6)。特に、陸続きのヨーロッパ諸国へは、パイプラインで天然ガスや原油が大量に輸出されており、ヨーロッパに暮らす人々の生活や産業の発展には欠かせないものとなっています。

日本海を挟んで接する日本においても、材木や海産物の輸入、文化交流といったさまざまな面で、ロシアとの結びつきがみられます(→p.20)。近年では、日本から極東のウラジオストクへの航路が開設され、観光面においても活発な人々の行き来や交流が期待されています。

一方で、2022年にロシアがウクライナに侵攻するようになってから、ロシアが供給する鉱産資源への依存を見直そうとする動きも世界各地で広がっています。



○ = 2 節の問い = ① 見方・考え方 地域の特徴 (→ 巻頭 8)

○ ヨーロッパ州では、国どうしの結びつきの強まりによって、地域にどのような影響が生じているのだろうか。

節の振り返り 1

学んだことを確かめ、節の学習内容を振り返ろう

知識 地図帳活用

1. A ~ F にあてはまる国名を答えよう。
2. ① ~ ④ にあてはまる山脈名、河川名、半島名、海洋名を答えよう。
3. ① ~ ⑧ にあてはまる語句を、「節の重要語句」から選んで答えよう。

③ 半島 (→ p.66 ~ 67)  
 ・ ⑧ に削られてできた  
 フィヨルドがみられる  
 ・ 冬の寒さが厳しく、夏は  
 短い

大西洋や北海沿岸の地域 (→ p.67, 72, 74)

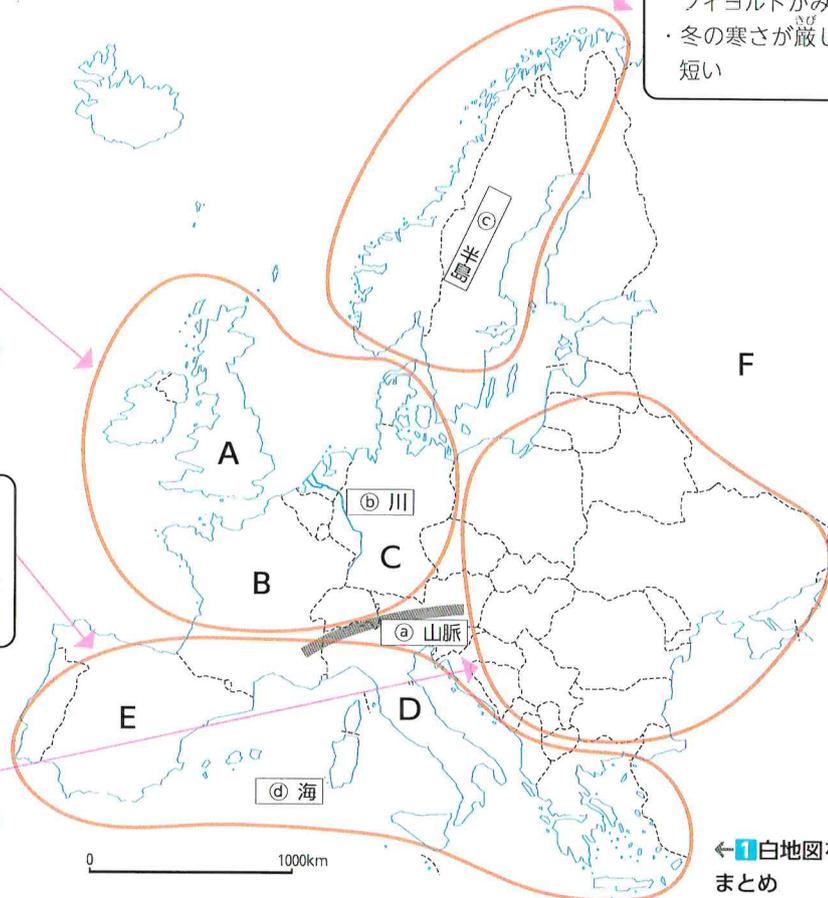
- ・ 暖流の ① とその上空を吹く ② の影響で高緯度のわりに温暖
- ・ 小麦やじゃがいも、家畜の餌にする作物の栽培と家畜の飼育を組み合わせた ③ が行われている
- ・ デンマークやオランダでは乳牛を飼育する ④ が盛ん
- ・ 先端技術産業が成長

④ 海沿岸の地域 (→ p.66 ~ 67, 72)

- ・ 山がちで火山も多く、地震が発生
- ・ 夏は晴天が続いて乾燥する地中海性気候
- ・ 夏はオレンジなどをつくり、冬は小麦などを栽培する ⑤ が行われる

東ヨーロッパ (→ p.71, 73, 75 ~ 76)

- ・ 2000 年代以降に ⑥ へ加盟する国が増えた
- ・ 比較的所得が低い国が多く、西ヨーロッパの国々との ⑦ の課題を抱えている



☑ 節の重要語句 簡単な説明ができた語句にチェックを入れよう。

- |                                 |                                  |                                       |                                 |                                       |                               |
|---------------------------------|----------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------|---------------------------------------|-------------------------------|
| <input type="checkbox"/> アルプス山脈 | <input type="checkbox"/> 偏西風     | <input type="checkbox"/> 正教会          | <input type="checkbox"/> ユーロ    | <input type="checkbox"/> 先端技術産業       | <input type="checkbox"/> 経済格差 |
| <input type="checkbox"/> 国際河川   | <input type="checkbox"/> 白夜      | <input type="checkbox"/> ゲルマン系        | <input type="checkbox"/> 混合農業   | <input type="checkbox"/> 国際分業         |                               |
| <input type="checkbox"/> 氷河     | <input type="checkbox"/> キリスト教   | <input type="checkbox"/> ラテン系         | <input type="checkbox"/> 酪農     | <input type="checkbox"/> 情報通信技術 (ICT) |                               |
| <input type="checkbox"/> フィヨルド  | <input type="checkbox"/> プロテスタント | <input type="checkbox"/> スラブ系         | <input type="checkbox"/> 地中海式農業 | 産業                                    |                               |
| <input type="checkbox"/> 北大西洋海流 | <input type="checkbox"/> カトリック   | <input type="checkbox"/> ヨーロッパ連合 (EU) | <input type="checkbox"/> 食料自給率  | <input type="checkbox"/> 再生可能エネルギー    |                               |

	EUの統合による効果	EUの統合によって生じた課題
人の動き	・パスポートなしで自由に国境を行き来できるため、好きな国に住んだり、好きな国で働いたりできるようになった	①
物の動き	②	・共通農業政策がとられているため、経済的に不安定な東ヨーロッパの国々の農業に支出する補助金が増加した
通貨	③	・スウェーデンやデンマークなど、EUに加盟していてもユーロを導入せず、独自の通貨を使っている国もある
産業	・国際的な分業による航空機の製造など、国を超えた技術協力ができるようになった	④

結成の背景

- ・言語が似ており、宗教(キリスト教)が共通している
- ・面積や人口の小さな国々…アメリカ合衆国などの大国と対等に競い合う
- ・多様な民族・文化(かつては戦争を繰り返していた)…互いに協力して発展していこうという動き

↑ 2 ヨーロッパにおけるEUの統合による地域への影響をまとめた例 思考ツール 巻頭9 マトリックス

1 節の問いについて、図でまとめよう

◆この節の学習を振り返りながら、図2の①～④を埋めて、ヨーロッパ州における、EUの統合による地域への影響についてのまとめを完成させよう。

2 節の問いについて、考えを深めよう …対話…

◆図2をもとに、EUの統合とそれによる地域への影響を表す写真を、教科書やウェブサイトなどから1枚選ぼう。

◆グループになって、選んだ写真とその理由を発表し合おう。そして、あなたたちだけの「写真で眺めるヨーロッパ州(→p.64～65)」をつくり、地域の特色を示すタイトルをつけよう。

3 節の問いを踏まえて地域の特色をまとめよう

◆図2と②をもとに、ヨーロッパ州の特色を文章で簡単にまとめよう。

2節の問い

○  
○  
○  
○  
○  
○  
○  
○  
○  
○

ヨーロッパ州では、国どうしの結びつきの強まりによって、地域にどのような影響が生じているのだろうか。

ヒント1

ヨーロッパ州で国どうしの結びつきが強まった背景は？

ヒント2

結びついたことによる効果と課題は？

🔄 振り返り

主体的な学び

- 節の問いの解決に向けて主体的に取り組むことが  
よくできた できた あまりできなかった  
 →よくできた点や改善したい点などを書き出そう。
- 節の学習を終えて、新たな疑問や探究したいこと、深めたいことなどを書き出そう。